

緑化だより

No.156 令和元年 12 月号



アオキの実

- 季節の花(タチバナ)
- 昆虫の話(小さなハンター・ヒメカマキリ)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(2))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

ryokka 緑化センター

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811

FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>

E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



季節の花

タチバナ(ミカン科)

「橘は 実さへ花さへその葉さへ、枝に霜降れど いや常葉(とこは)の樹」

聖武天皇 万葉集 巻6:1009

これを訳しますと

(橘(たちばな)の木は、実も花もめでたく、そしてその葉さへ、素晴らしいものですが、枝に霜が降っても、ますます栄える。めでたい常緑の木ですね。)

奈良時代(736年)11月に左代弁(さだいべん)葛城王(かつらぎのおおきみ)らに、皇族の地位を辞退して、母方の橘(たちばな)の姓を頂いたときに、祝いの宴会の席で聖武天皇が詠まれた歌です。

タチバナはミカン科で、別名ヤマトタチバナです。和歌山県、三重県、山口県、四国、九州の海岸近くの山地にわずかに自生しています。日本固有の柑橘類で、葉にはミカン属についている特有な翼葉が有りません。花は白色、果実は2~3cmで橙色です。国の天然記念物になっています。近縁種にはコウライタチバナが有ります。



タチバナの実

常緑樹である橘は、昔から実より花や葉が注目されマツと同様に「永遠の命」をもたらす木として喜ばれました。平安京の頃から京都御所の紫宸殿(ししんでん)の南庭に植えられて「右近の橘」と言われて、昔から珍重されています。

また、悠久、永遠性に富み、文化の永久性に通じることから、1937年に制定された文化勲章は橘をデザインしています。5弁の花、紐には、実と葉が用いられています。実は酸味が強く生食には向きませんが、ジャム(マーマレード)やお酒に加工されています。(上村)



文化勲章

昆虫の話

小さなハンター・ヒメカマキリ

寒さが厳しくなってくると、野山で見かける虫は数も種類も少なくなってきます。秋によく見られる虫といえばカマキリですが、寒くなると卵を残して死んでしまいます。そんな中、最も遅くまで見られるのがヒメカマキリです。ヒメカマキリは体長3cmほどで、茶色い翅のふちに緑色のラインが入る小さなカマキリです。一般的なカマキリをそのまま小さくしたような姿をしているので、子供たちからは大変人気です。成虫は晩秋に見かける機会が多く、しばしば雪が降るまで生き残っています。ちなみに広島にはもう一種、ヒメカマキリと瓜二つのサツマヒメカマキリがいます。姿があまりに似ているので見分けるのは難しいですが、こちらは成虫が夏に現れ、秋には姿を消すので区別できます。

どちらのカマキリも森林に住み、小さな昆虫を狩るハンターです。ヒメカマキリとサツマヒメカマキリは冬の過ごし方が



大きく違います。ヒメカマキリは卵で冬を越し、翌年の春に卵から幼虫が出てきて秋に成虫になります。一方、サツマ

ヒメカマキリ

ヒメカマキリは夏から秋に卵を産み、すぐに幼虫が産まれてきます。そして幼虫のまま冬を越すのです。

姿形は似ている2種類の虫が、ここまで生き様が違うのはとても興味深いことです。

晩秋から冬の初め、森の中にある建物の壁や遊歩道沿いの手すりの上などでヒメカマキリを見かけることがあります。彼らはこの時期、雨風をしのげる隙間を探して卵を産み付けます。卵は樹皮の下や岩の隙間、しばしば看板の裏等で見つけることができます。もし山で見かけたら、ぜひ観察してみてください。(市森林公園こんちゅう館 逸見)

小さな世界こけ

コケが観察できる場所(2)

今回は、入口の大きな看板“ひろしま遊学の森”付近のコケを紹介しましたが、今回は少し進んで、ゲート付近を探してみましよう。

ゲートを入れて右手にツツジの生垣が続いています。その生垣に絡みつくように垂れ下がっているのはキヨスミイトゴケ(セン類)です。名前の由来は房総半島の清澄山からきており、長さ10~20cmの明るい緑色の、細い糸くず状のコケで、空中湿度が高い場所に生育し、第2駐車場上段でも見られます。正倉院宝物の織物から緑色の糸として使用されていることがわかっています。



キヨスミイトゴケ

ゲート付近のモミジの幹に着生しているのはヒロハツヤゴケ(セン類)です。茎は不規則に、羽状に分枝し緑褐色の葉は光沢があります。乾燥時はカサカサした感じがあります。大気汚染に強いので都市部の公園でも見られます。



ヒロハツヤゴケ

右手、大きな側溝に沿って、山肌から水がしたたり落ちている場所ではジャゴケ(タイ類)の群落が見られます。

葉状体の表面のブツブツした感じをへびのウロコに見立てたのが名前の由来です。雌雄異株で、雄株は葉の先に円盤型の雄器托をつけ、雌株は晩秋に雌器托を作り、春になると伸びて傘の下に孢子のうをつけます。又、近年の研究では①山道沿いの土を好むウラベニジャゴケ、②水辺を好むオオジャゴケ、③水辺を好むタカオジャゴケの三タイプがあるとされています。



同じ場所では、ケゼニゴケ(タイ類)が混生しています。

ジャゴケと同じくらいの大きさの葉状体ですが、ツヤがなく葉の縁には毛が密生しています。雌雄同株で、葉の先端にできる雄器や雌器托にも毛が生えています。



ケゼニゴケ

他にも、セン類のオオスギゴケ、コスギゴケ、コソボゴケ、トサカホウオウゴケ、トヤマシノブゴケやアブラゴケ、タイ類のコマチゴケなどが見られます。(山根)

研修会のご案内

- 12月 1日(日)『クリスマスリース作り』
自然素材でリースを作ろう(直径40cm以下で)
※要予約(キャンセル待ち)、材料費500円
10:00~12:00 学習室 集合
講師:森林インストラクター
長井 稔
- 12月12日(木) 第3回ひろしま遊学の森「四季の移ろい」
写真コンテスト公開審査
※自由参加・無料
10:00~12:00 学習室 集合
講師:二科会会員
宗岡 泰昭
- 12月13日(金)『常緑広葉樹の見分け方』
室内で実物の葉っぱを見て学ぼう
※自由参加・無料、ルーペ持参
夫
10:00~12:00 学習室 集合
講師:広島県文化財保護審議会委員
(植物生態学) 吉野 由紀
- 12月20日(金)『しめ縄づくり』
自作のしめ縄で新年を迎えよう
※要予約(キャンセル待ち)、材料費700円
10:00~12:00 学習室 集合
講師:小河内わら工芸会
- 12月21日(土)『ミニ門松づくり』
正月飾り作りを体験しよう
員
※要予約(キャンセル待ち)、材料費1,000円
10:00~12:00 学習室 集合
講師:三良坂竹公房 指導
諫早 良雄
- 1月 7日(火)『春の七草、学んで試食』
七草について学び、七草粥を試食しよう
※要予約(先着30名)、無料
10:00~12:00 学習室 集合
講師:緑花文化士
横山 直江

☆お知らせ・ご案内☆♪

・12月の休園日は2日、9日、16日、23日の月曜日と、
12月29日(日)~1月3日(金)です。

・合格祈願「やまこうばし」のお守り
管理事務所にて1人1枚、無料

◎ 展示会

場所:レストハウス
(ガラスケース展示)

・モーモーアート紙粘土作品展

12月7日(土)~1月26日(日)

(ボード展示)

・第3回ひろしま遊学の森「四季の移ろい」
写真コンテスト展

12月15日(日)~1月26日(日)

~ 森林公園 イベント情報 ~

・12月8日(日)

11:30~12:00

プリズムコンサート

(芝生広場 休憩所)

・12月24(火)

森のサンタを探せ

(森林公園 園内)



合格祈願「やまこうばし」のお守り



昨年の「モーモーアート紙粘土作品展」より